



しんがれ
らゑのさへ
もよこし
きし
あつこ
かたさ



もよこし
あつこ
の
ゆい乃山
ゆり子
あつこ
あつこ

一 先祖せんぞ 山やま 庄ぢやう 公こう 塔たふ 公こう

一 破やぶ 壞くわい 莊ぢやう 私し 宅たく 幸しゆん

一 君きみ 父ちち 主ぬし 因いん 人ひと 令れい 嘉か 鄰りん

一 忠ちゆう 孝かう 根ね 幸しゆん

一 公こう 務む 重じゆう 私し 用よう

一 不ふ 忍にん 天てん 道だう 勸くわん 幸しゆん

一 小せう 過か 軍ぐん 不ふ 幸しゆん 紀き

一 令れい 初しよ 死し 罪ざい 幸しゆん 紀き

一 大だい 科か 案あん 為ため 具ぐ 負ふ

一 沙さ 法ぽう 後ご 宮みやう 免めん 子し

一 貪きん 民みん 令れい 没ぼつ 例れい 社しゃ 紀き

一 務む 業ごう 死し 幸しゆん



Handwritten notes in the top right corner of the left page, including characters like '中' and '下'.



Handwritten notes in the top right corner of the right page, including characters like '子' and '乃'.

一 夫 失 他 人 理 致 豈
 一 身 慕 者 指 威 事
 一 不 知 身 分 限 或
 一 遣 命 或 不 足 事
 一 烟 質 活 毫 倭 人
 一 被 北 分 沙 汰 事

一 不 弁 治 下 善 惡
 一 不 正 賞 罰 事
 一 我 如 知 治 下 働 事
 一 又 下 為 同 事
 一 企 色 乱 取 悦 心 地
 一 人 熱 樂 舞 事



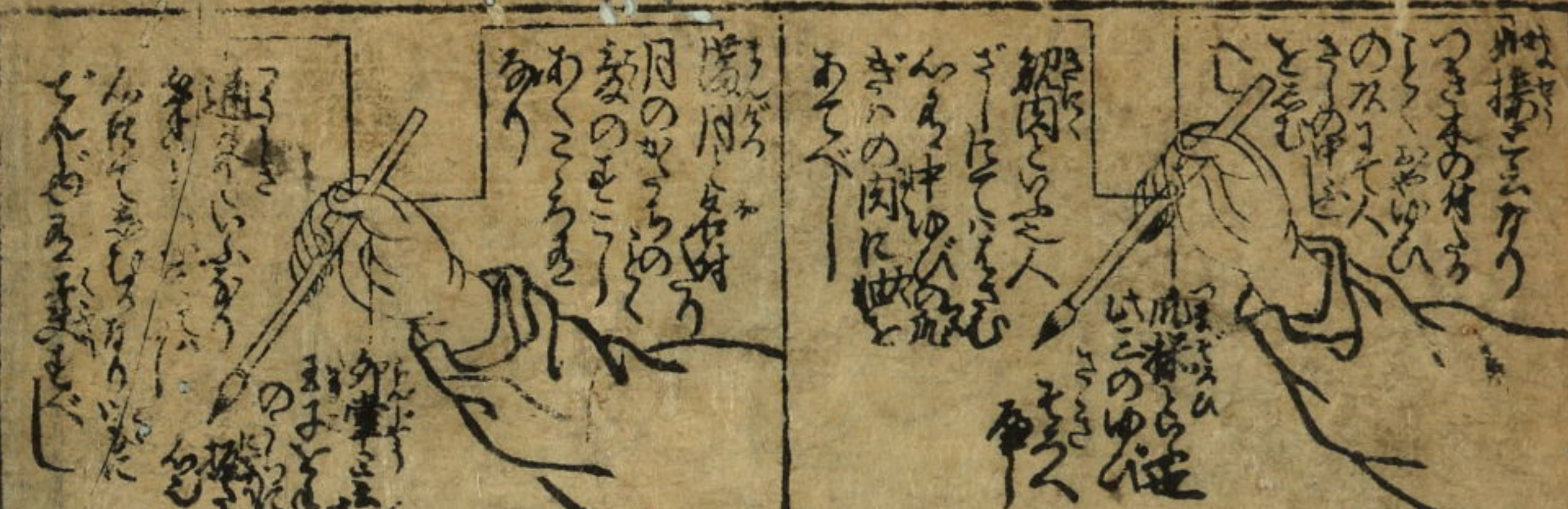
筆道傳授



その中の
かたが
人か
はな
そのり

一人來則據虛席
 不能對面事
 好獨味不能施
 入合隘者事
 一或具衣世業已道
 心治下見若事

一非乃のふ六美旨
 路而表不可煙子
 一長酒宴花真信
 負志家賊事
 一迷已利根就可
 端嘲化人字



一出家沙門を以て
 崇可正礼義子
 一貴族を以て
 道理伯安樂子
 一於令國立諸國を
 一性遠旅人來

永
 水
 氷
 氷
 氷

右に永く奉るに相會
 る合戦情事長士乃
 不孤に向當て執り候身一
 也先で守國事せし事ある
 不孤政道と旨い書入候
 外軍出永後取巻也知あり

諸君之書



主人父母の元小御前様
まゝに御座り候へば
御座り候へば
御座り候へば



清く正しく
清く正しく
清く正しく



清く正しく
清く正しく
清く正しく

清く正しく
清く正しく
清く正しく



清く正しく
清く正しく
清く正しく

時にお付乃公岸他初惠友と
て有随順水河方味と美入
昔思友云事其入老法
言禮之也賢仁人美及也
司君為侍今中侍之也缺知悉
分人之君也事河知謂者

是者誠之知也態也持持正友
不好方我朋者人美及也
云建法勿撰捨人老及云
也思友謂事也不限也一
一初身也虎人本技也
却成托身一生或吉也



禮記の
小袖
小袖
小袖



禮記の
小袖
小袖
小袖



禮記の
小袖
小袖
小袖



禮記の
小袖
小袖
小袖

照治事不國去近習亦外
物山海を為蒲武級友不道
重夜迴慈悲出符之遠魚
治之人百住之為法得既
王智真光覺念合由防刻上
下策之修批判るの多矣

唯仏にた救死法は自産
外如演法は碑緒不
捨文武武乃治味兼行義
礼智信一願下危政乃約
罪志を人信排世法令死
居制其狀法修之因果



此の人の名は...
...
...



此の人の名は...
...
...



此の人の名は...
...
...



此の人の名は...
...
...

不平道七科才思亦出
然多也言者其付の必要
也益之例排私用与馬
之道也其用者不扶持殺
輩免ひ取原亦冷く法教
人自先親亦行合道也相

遠其何依自人扶持振威
勢多少也既生之知合我
乃家法不從不持兵士不
知夫少朝儀備下口惜
次才也仍存書如件
永享元年九月廿六日



引ひたるはよにたつて
くへいひたるはかき
なるるこゝろにたつて



そは切らうとていふ
くひに切らうとていふ
くひに切らうとていふ



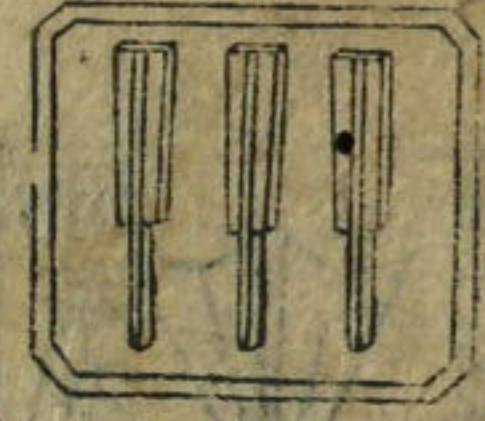
あゝ羞めんどうの
直一白の紅葉
らつたにそれり

之を名末代に白目之文者
くひのしやうぢんでけんハ
学言く女人女女を必如向敵之
打物ふも明取現るる
下むひ也後之文宗一之勵
女智者能辨人者信人貴之
實說人浪米淡ふ然の満在

七珠万室ふ貯め任之者あり
亦お味字不用之輩を其身
沙也拙庫師也父母有園也
子園老来は悔ふ方也如
雅時ふ師命ふ之親信未
係才る聖下も不字一字文

いづれか

あまのり



あまのり
あまのり
あまのり

▲本具のついでに
ついでにのついでに
ついでにのついでに



▲本具のついでに
ついでにのついでに
ついでにのついでに

初 徳 泉 劫 定 回 を 沈

知 波 信 業 事 玄 呂 業 者 呂 忠

云 年 耳 先 玄 固 然 玄 机 漢 考

寒 者 玄 金 類 南 回 玄 能 在 素

玄 後 玄 取 日 為 以 附 取 有 漢 忠

怨 背 肉 回 抱 玄 成 既 故 有 漢 務

深 亦 世 業 固 兩 感 氣 坐

式 茶 古 七 父 言 具 拜 他 非

海 維 介 披 君 玄 玄 此 款 仁

半 事 玄 表 嫌 玄 業 新 玄 情 道 仁

連 懷 者 坤 受 身 折 髮 膚 骨 於

父母 不 沖 步 時 友 古 以 教 化

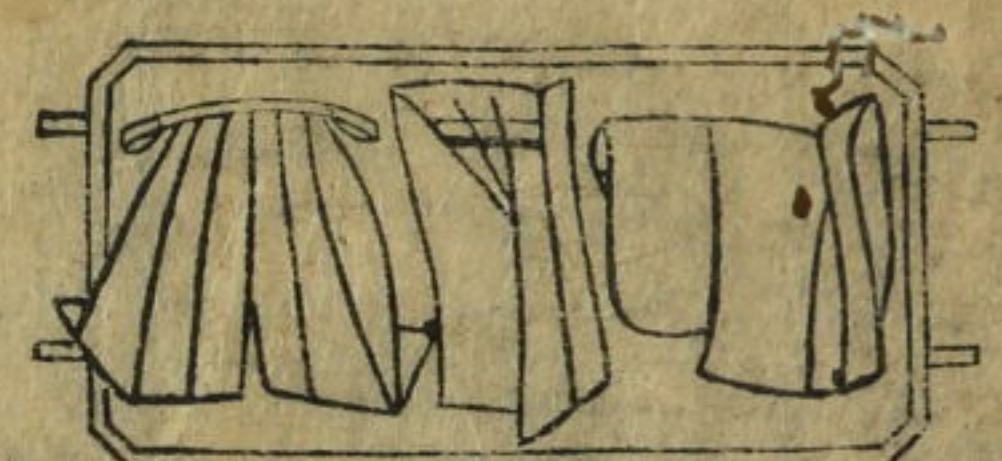


▲本具のついでに
ついでにのついでに
ついでにのついでに

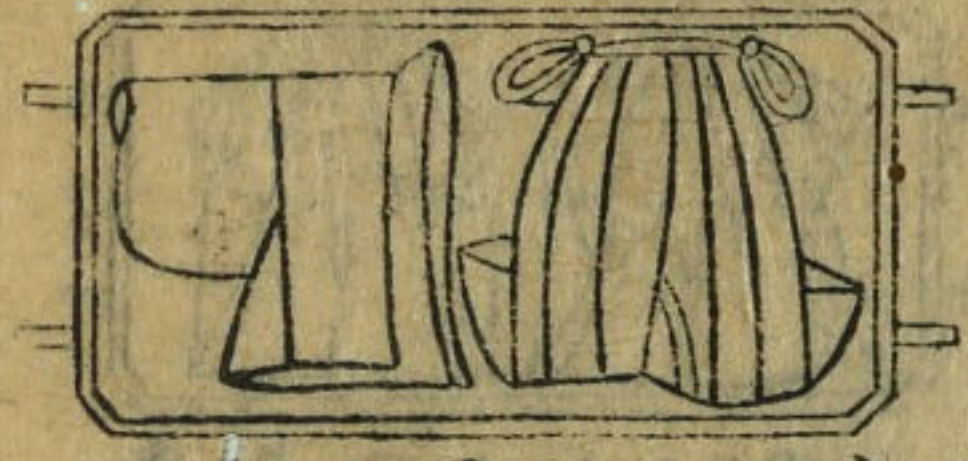


▲本具のついでに
ついでにのついでに
ついでにのついでに

鳥羽の御衣



鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣



鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣



鳥羽の御衣



鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣
鳥羽の御衣

親し服加し為枕中置らる
業為本主侍秋奉休七端
背懐に介せ此の刺義終
補綴に徳村糸苗家より
目着代中威の奉此半段如
今悲深秋切因茲の法も法程

牛王寶中裏ふ挿野々名
奉信舊日本主中六十條
大小袷袂真乃隨書を敷
毎起信文程に寄り寄り
我園者袷袂不東袷袂
不敷此他貴殿廣大に



鳥魚の図



魚鳥の図

慈母河使軍人建て守る道
必計傳世孫有恥も先を積
善餘美及家傳業花も永
子孫仍用ひ来熱眉切一期
安寧ふ定て去後海人者賜年
徳華仍沙貨崇信増徳云



魚鳥の図



魚鳥の図

元暦丁酉六月日 義經
進上 周幡守殿

中 義經 會狀
徳白抄義經末期後、善和
之卷、進上、周幡守殿、

二十四の異名

正月 正月

初月 東風初吹

有 聖凍徹解

有 蟻虫衣相

有 團蝶舞

有 蟬有見色

有 霞散

雨水 中

十六日 黄菊出香

十九日 菊木萌秀

廿六日 洛尾始瑞

二月 二月

二月 二月

向其云云思後定猶格秘

秘法也人定座禪床信探

令胎也其真意自心して心

必也我身母猶也身家

花林飛人儀又常道欲

現當世其情也先世も宿

六方 空芥心盡

去る 龍尾為龜

春分 中中

北窓

北窓

北窓

北窓

北窓

北窓

依那道の人にお果者親家源
松外征夷大將軍末子牛養次
曹司賢仁其相も若大也其
初家系格七表切も書置
物風等風平式知生与馬
家記持負思既早送致入



十六日 蕪湖來
 十五日 彼卷中日
 十四日 日光池
 十三日 春光初顯
 十二日 三月 沐
 十一日 初日 桐川南完
 十日 蕭化成編
 九日 万虫始生
 八日 穀雨 中
 七日 蛇胆始生
 六日 早麥始生
 五日 卯也見甲
 四日 不戴葉葉
 三日 竹葉子
 二日 不戴葉葉
 一日 不戴葉葉

洛下播多垣秋首及云
 美合浮船浦浪花龍
 氣也控者皆食
 馬眼限於落
 古志子端
 香江之世
 終
 逃伏
 來

十五日 蕪湖來
 十四日 彼卷中日
 十三日 日光池
 十二日 春光初顯
 十一日 三月 沐
 十日 初日 桐川南完
 九日 蕭化成編
 八日 万虫始生
 七日 穀雨 中
 六日 蛇胆始生
 五日 早麥始生
 四日 卯也見甲
 三日 不戴葉葉
 二日 竹葉子
 一日 不戴葉葉

奉師傳
 西
 四月
 萬民
 車
 行



右二千四百の...
 備...
 七...
 三...



○備...
 何...
 右...
 何...
 右...
 何...
 右...
 何...

文文實仁...
 仁...
 仁...

固...
 固...
 固...

不...
 不...
 不...

右...
 右...
 右...

文...
 文...
 文...

上 然右送状

直實...
 直...
 直...

來...
 來...
 來...

揮...
 揮...
 揮...

負...
 負...
 負...

意...
 意...
 意...

切花冊なる次第も
その初古信物
別紙を以て
一紙 所云依様紙
信付の御法度
流石におもひ
その他人信物
事柄お一切の
中々おはし
之を出入
付た所云人
亦入少も
御書中
何方も

雲出使所統御來成流記
時張志実出月涼
彼者多辨先者
却の頃卷由獲云子
適信生おらる家
觀於款旗寛歎
下

一家用
次大為
中々
乃々
引九
後
方
相
造

正双名敷
集
按劍
名於
家面目
上津
下

年号月日

何人何事の判

信之信之判

何處の意の友

○有云信之判

一何の意の中者

何十歳の子

何者何の身

何の意の中者

何の切治法

信用之法

人三三三

かき本家



一河公儀攝法
之切死丹室
表及乃中
無之信宗
代西中
宗与別寺
人方

奉に善抄帛也類は信向

不計也抑落法首結平根痛

式は君と重実有結思縁歎出

小宿縁其法身成也歎害臨

然氣作送縁何年切生死他

然一連身送るふ玉順縁は然

則不尔居比宜奉帛は喜

挽者也直実中伏実音後受

其其隱者也以は執は然不淺

丁有は披中病者也識之禮云

秀永三三二月自丹治重実

進上修實帛内在處對殿

不効也何所究
 之元正用之常
 山以子飛魚玄相
 後一子之乃後
 且死子飛の件
 他人誰判
 自号自
 信之誰判
 何處誰友
 右利誰是之月
 何百目宛と毎月曲
 日無及乃後一
 下以之

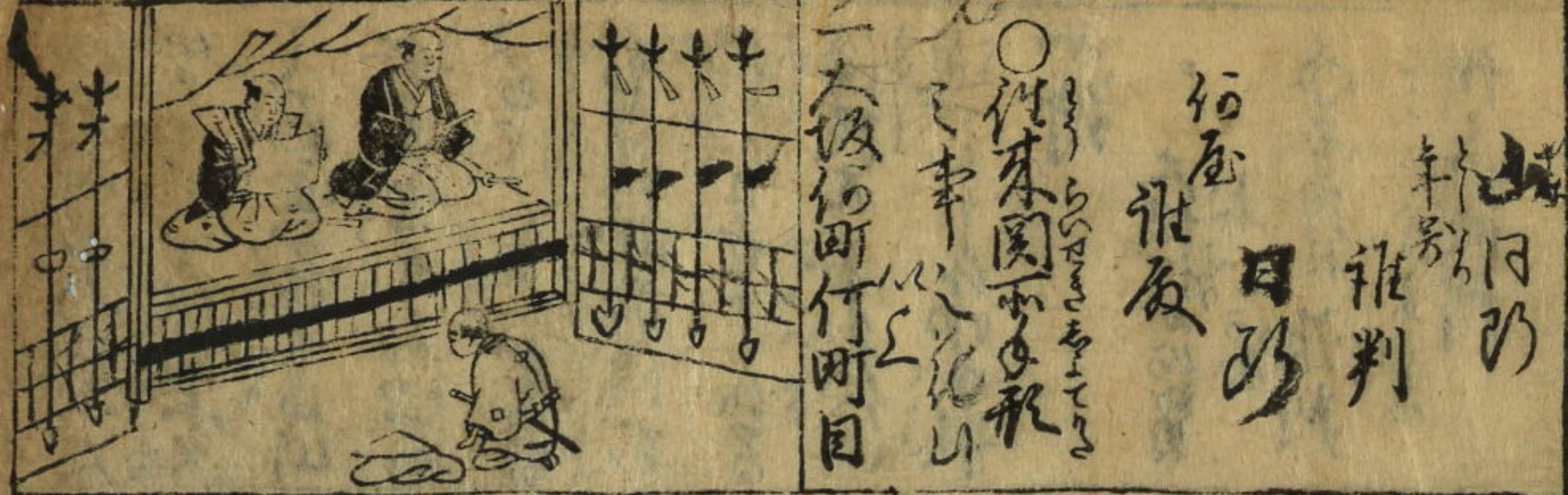
今日夕延其伴未離身遊
 來隨情無其故安者双翅隨
 死後亦通も信必定之討也隨
 傳取未安實者間何風使
 國其音信信天際地奉初控
 似秋亦待感意近七方自内均

○永代賣後
 家全安之幸
 一何町何所目何屋
 何草の家全安表
 口何指何町並
 但何物後山隣
 何屋何草の南
 隣何處何表
 右之家全安表代派
 竹拾貫目水代賣
 後之派子信之信元
 中不實定方一以
 家全鋪付法親
 親不不中服也

凡彼死骸も竹身天聖死
 同何信心深路初外感後増之
 彼心漫袖但生る二度如彼來
 又是即回お信指非も切芳
 恩者幸博見之入一門風香
 終之況也感之為和漢初右

遠祖... 義中... 何時... 唯... 文判... 又... 日...

今未... 殿... 之... 瑞... 秀... 然...



大坂進状
 今... 越... 浪... 先...

長十九年

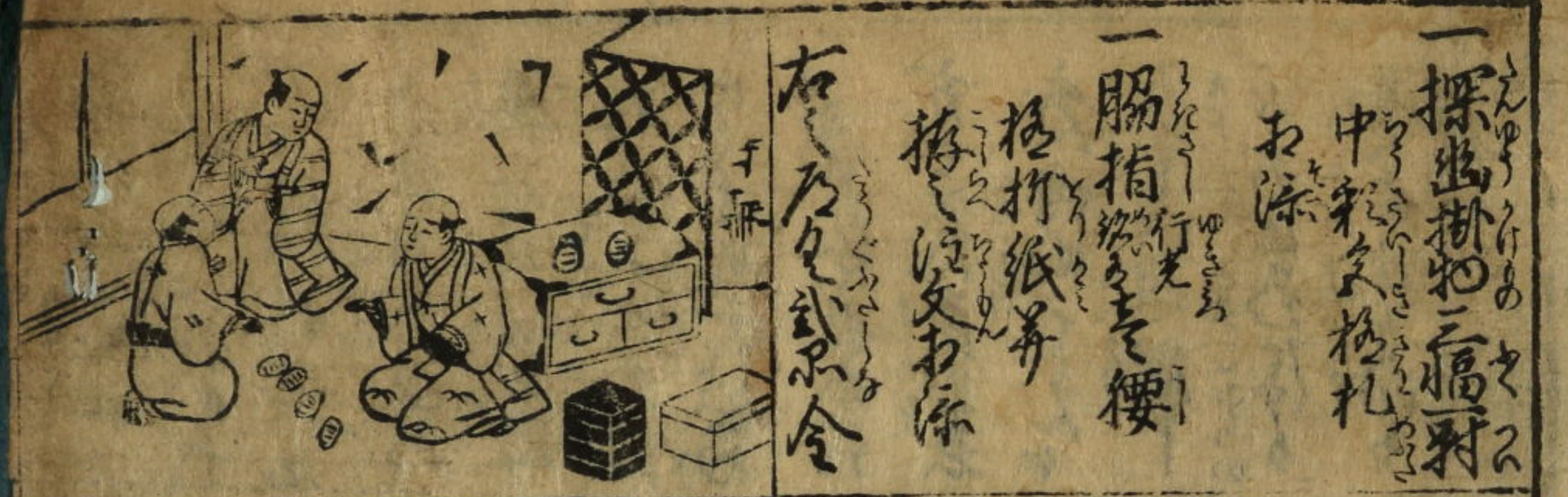
大野馬友

同返状

芳名貴人披見公の徳被
秘教を執断す取引りて
徳の父大谷秀頼及千代殿

此書は徳の徳
手紙の色又ハ子
出仕仕る大お
深き御嘉言
安否及返弁
仕仕る後日一札
仍お件
惟判
惟念

車号月日
惟念
惟友
○乃具書



探出掛物二痛利
中彩文格札
お添

一脇指
格折紙并
格紙文お添

右乃具書合

天下下相済る名日本徳名
叔母起信文上の事ふ
有紛持家先子留法初
少痛一身以女是改後奉
不運る不を忠其決也矣
見謂割秀頼送乞格紙

何捨也... 中不實... 令多... 中... 具... 抄... 中... 方... 友... 少... 名... 賣... 如...

竹切... 教... 厚... 孤... 國... 蒸... 下... 為... 國... 目... 若... 國... 白... 竹... 天

白... 雅... 雅... 雅... 雅... 雅... 雅... 雅... 雅... 雅... 雅...

道... 者... 也... 廣... 秀... 廣... 秀... 廣... 秀... 廣... 秀...

世... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

